

夜景サミット2016 in ベトナム (所感)

長崎市議会議員 吉原 孝

夜景サミット2016 in ベトナムは、7/25 (月) から7/29 (金) までの4泊5日の行程であったが、そのうち機中泊が2日という強行日程であった。

新興国ベトナムの生産人口の多さ (バイク車輛の多さ) と子どもを含めた人口の多さ、若い国の活力を実感した。

国民の年間平均所得が2,000ドル、これからの発展が楽しみだ。国民の表情に暗さがないのが印象に残った。

7/26

◎JETROホーチミン事務所訪問

- ・15万人が技能実習生として日本へ来ている。
- ・輸出産業は農水産物を中心に労働集約型産業が中心。
- ・ホーチミン市近郊の日本企業の進出状況及びビジネス情報を報告。

◎ESUHAI (実習生教育機関) 訪問

- ・授業中の様子を見学。
- ・生徒代表のあいさつを聞く。
- ・数人の希望職種と抱負を聞く。
- ・管理者より教育運営方針を聞く。

上記2施設の訪問により、

1. 日本への労働供給国であり、受け入れも含め、日本国は体制づくりが大事だとの認識を得た。
2. 一般にベトナム人の女性は働き者、男性は働きが弱い。ベトナム人に生活習慣、職業意識など基本的なものからの指導が必要と感じた。
3. 日本語習得、日本式礼儀作法、ゴミ出しなどの生活習慣教育を行うなど、日本企業や日本へ実習生を送り込むために、戦前の徹底した教育を模した実習を行い、短期間に養成している努力を目の当たりにした。

◎夜景サミット

宿泊しているホテルで会が催された。党・政府関係者、地元の報道機関、観光業者など多数の参加があった。

市長のプレゼンテーションは有効であったが、長崎紹介の映像の中で夜景のみならず多様な長崎中心のPRをすべきでなかったか、少しもの足りなかった。

また、日本から数都市参加していたが、イベントとしてのプレゼント贈呈を拝見し、本市のプレゼントの質、量にもっと工夫が欲しかった。世界新三大夜景都市長崎として貧弱な品揃えだと感じた。

所得が伸びる中国からの実習生の確保は難しく、中国に代わってベトナムなどアジア一円からの受け入れが進みます。団塊の世代の退職、少子高齢化を背景に外国人労働力の拡大、推進は避けられない課題だと思う。政府は実習生の保護強化と受け入れ拡大を目的とした施策を打つべきだと思う。

今後、日本・長崎とベトナム・ホーチミン市との交流をさらに深め、人的交流拡大を図る必要性を実感した。

実習生は日本語の勉強だけではなく、あいさつなどの礼儀作法についても教育を受けているとのことだったが、実際に教室を訪問して、同社の教育方針と実習生の意欲の高さに感銘を受けた。